



高速しが

平成26年
5月号

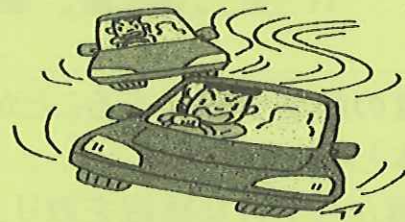
発行 滋賀県高速道路交通安全協議会・滋賀県高速道路交通警察隊

行楽期の交通事故防止

楽しい家族旅行も、ちょっとした油断が悲惨な事故を招きます。
次のような「重大事故」に直結する行為はやめましょう。

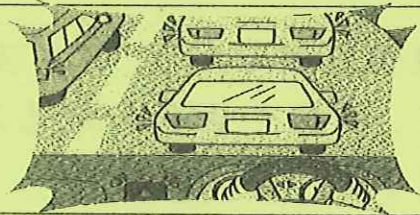
車間距離不保持

十分に車間距離をとらないで走行していると、前車が突然急停止した時素早く反応して急ブレーキをかけても、安全に停止することはできません。重大事故を招く非常に危険な行為であることを認識しましょう。



速度超過

速度が早くなればなるほど身に迫る危険は倍増します。特に雨の降り始めや降雨時などには、通常の動作であってもスリップし、操作不能となって事故を招いてしまいます。



携帯電話の使用

走行中、携帯電話での通話やメール操作等は、的確なハンドル操作が出来ないばかりか注意力が緩慢となり、前車の動きに対応できないまま事故を起こしてしまいます。

携帯電話は最寄りの、P-A、S-Aに駐車後応答してください。



ハザードランプの活用

渋滞が発生し、速度が落ちたら必ずハザードランプを点灯してください。前方に渋滞を発見したにも関わらず、漫然と減速・停止することは、後続車に前方の危険な状況を伝えることができず、重大な交通事故につながります。

タイヤ（空気圧）の点検を忘れずに！！

眠気は疲労の兆候です。

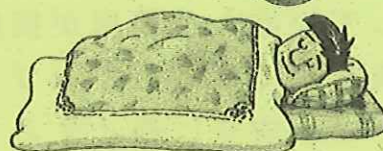
- 疲労の兆候で最も頻繁に現れるのが「眠気」です。
眠気を我慢して運転を続けることは、居眠り運転に陥り、重大事故に直結する最も危険な運転状態なのです。

居眠り運転の防止対策



- 良質の睡眠を確保することが、居眠り運転対策の基本となります。

日頃から十分な睡眠を取り、健康な生活を送るよう自己管理に努めましょう。



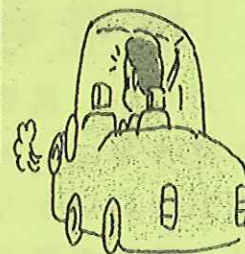
- ガムを噛む。

窓を開けて車内の空気を入れ換える。

目を意識的に動かして、運転の単調さを解消するなど、自分に適した眠気防止対策をしましょう。

- 眠気を感じたら、車を安全な場所に止めて、休憩や仮眠を取ることが最良の対策です。

居眠り運転のリスクが高まる連続運転の後半や、深夜の時間帯にはこまめに休憩して、疲労回復に努めましょう。



「あともう少し、まだまだ大丈夫」は
居眠り運転の危険信号!!